

URBANIX株式会社 (まちづくり・観光・不動産) の取組み事例：まちの余白を資源化するまちづくりDX

参加者

企業 	社名	URBANIX株式会社
	業種	まちづくり・観光・不動産
参加した受講生の概要 	事業概要	都市の中の“変わり目”にある場所に入り込み、調査・企画・プロデュース・実装支援を行う
	所在地 (都道府県・市区町村)	福岡県福岡市
	提供データ種類/蓄積量	人口動態や店舗商業施設に関する立地データ
	チーム名	よかまちイノベーターズ
	チーム人数	4名
	スキル・PR	機械学習、データ分析、まちづくり、社会福祉士、ITシステム構築、等
	進める中で工夫したこと	QGISを用いて、地図上でデータを可視化しながら、企業様と視覚的に確認を進めた

実施概要

課題内容

都市資産をDXで再定義し、新しい市場を生み出す新規事業プロジェクト

- 空間や場所と、挑戦したい個人・事業者をつなぐマップ型プラットフォーム「Placebook」を題材に、都市に眠る未活用資産（空き店舗・公園・広場など）をDXの力で可視化し、新しいビジネスモデルを生み出す
- UI/UXの観点から、ユーザーが受け取りやすい（出店しようと思える）情報加工とはどういうものか、受講生チームから提案



実施した検討内容

必要データの洗い出し、オープンデータの収集（計10種）と可視化

- 必要データの洗い出し：ペルソナ設定、UI/UXの検討、現地調査、等
- オープンデータを収集し可視化して有効性を確認：人口統計、駅乗降客数、用途地域データ、建物用途、食品等事業者の営業許可・届出情報、等



検討の成果

出店希望者が直感的に活用できるUI/UX機能を実装可能に

- 収集したデータの中から出店希望者が直感的に活用できるデータを選定して表示方法を検討
- 「Placebook」マップ機能への実装を想定した具体的なデザイン案（駅乗降客数表示モード、地域特性表示モード）を作成→実装へ

URBANIX株式会社 (まちづくり・観光・不動産) の取組み事例：まちの余白を資源化するまちづくりDX

実施内容の詳細

必要データの洗い出し
オープンデータの収集 (計10種) と可視化

1.必要データの洗い出し

・ 出店者のペルソナを設定し、想定される業種ごとに出店の参考となると考えられるデータ・UI/UX案を検討

・ペルソナの設定例

・出店の参考となるデータの例

人口統計 (年齢別人口、世帯構成、世帯年収分布)
周辺環境 (子育て施設、公共施設、駅乗降客数)
競合分析 (同業態店舗数、相乗効果店舗数)
立地環境 (アクセス条件、人・車通行量、用途地域)
不動産 (家賃相場・路線価)

・UI/UXの検討例



2.オープンデータを収集し可視化して有効性を確認。

- ① 国勢調査メッシュ統計
- ② 人流データ
- ③ 駅乗降客数
- ④ 建物用途データ (PLATEAU)
- ⑤ 用途地域
- ⑥ 地価情報
- ⑦ 飲食店営業許可情報
- ⑧ 経済センサス
- ⑨ 道路交通量
- ⑩ Google Maps API



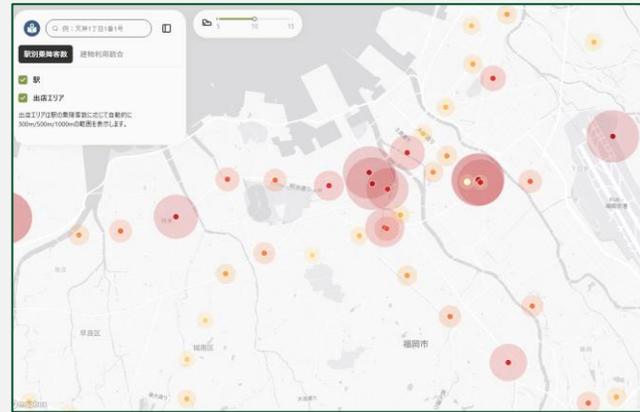
成果

出店希望者が直感的に活用できるUI/UX機能を「Placebook」に実装！

3.出店希望者が直感的に活用できるUI/UX機能を提案→実装へ

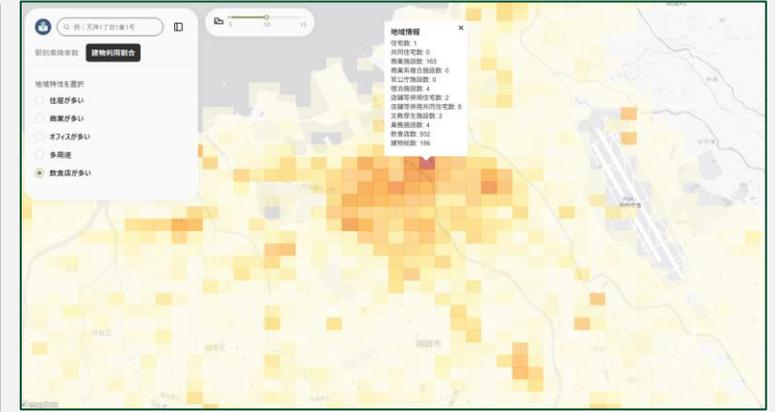
- ・ 収集したデータの中から出店希望者が直感的に活用できるデータを選定して表示方法を検討
- ・ Placebookマップ機能への実装を想定した具体的なUI/UXデザイン案を提案→実装へ

① 駅乗降客数表示モード



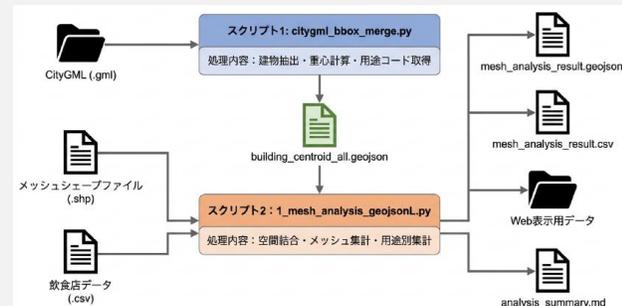
表示方法:駅の乗降客数に応じた半径の円(バッファー)で出店ポテンシャルの高いエリアを表示

② 地域特性表示モード



表示方法:ラジオボタンで出店者が希望する特性に一致する地域を表示 (5モード切替)、メッシュクリックで詳細を表示

・実装に必要なデータ変換スクリプトを作成



・得られた成果の意義

- 地域特性の直感的把握
出店者が地図上でエリア特性を直感的に理解可能に
- 未活用資産の再定義
空き店舗等のデータに新たな価値を付与
- 新規事業の発展に貢献
データドリブなマッチングで新規事業に貢献